

思い出の写真シリーズ 第17回

～長野県・河北省友好提携10周年記念～

陸上競技交流訪中の思い出

長野市陸上競技協会 理事 西内勉

恩師の山浦先生から、「自分の現役生活の3倍の年月を陸上競技に奉公すれば陸上競技人と言える。」の教えから微力ではありますが、何らかの形で陸上競技に携わらせていただいております私ですが、平成5年9月に中国河北省石家荘市に陸上競技の交流訪中団員として参加させていただくチャンスに恵まれました。

団長、県体育課長の西山駿司氏、副団長、小口正行先生、監督、浦野義忠先生、秘書、三條俊彦先生、コーチ、西内勉、選手は最近17年の選手生活を閉じた山本晴美選手他9名で構成され、地元大学のグラウンド交流試合を行ってきました。

団員ほぼ全員が、中国の水と油の影響を受け、体調が万全とは言えない状態であり、優勝は走高跳びの油井歩選手だけでしたが、選手共々貴重な体験をさせていただくことができました。

当時の石家荘市は、高層ビルもなく、町中に燃料となる石炭の臭いが漂っていた街でしたが、現在は高層ビルが乱立し、北京から高速道路が走り、人口も600万都市になっていると聞いています。

今年の夏には、北京オリンピックが開催されますが、選手と共に立つことができた天安門広場や故宮に再び立つと共に、世界の祭典オリンピックを観戦と、発展を広げている石家荘を訪ねてみたいと考えております。

恩師の教えの3倍の年月の奉仕には、まだ10年近くありますが、微力ではありますが、感謝の気持ちを忘れず、体の続く限り、陸上競技を楽しみながら奉公させていただく気持ちでありますので、これからもどうか宜しくお願いいたします。



編集後記

長野五輪から10年、そして今年には、北京オリンピックの年でもある。幸先良く広島男子駅伝優勝、監督や関係各位及び選手に心から感謝であります。佐久長聖高の頑張りには信毎の2月18日の朝刊にも中日浜名湖一周駅伝及び梅花駅伝両レース共々2月17日優勝です。この分では伊那の高校駅伝、そして3月末の海外遠征駅伝でも優勝するに決まっています。今年の青梅マラソンは第30回大会に続き2度目の雪で中止となりました。東京マラソンは26歳の藤原新(JR東日本)2時間8分40秒で五輪代表候補名乗り途中で足にケイレン来た時はハラワタどうなるかなと思ったけれど良くなってゴールした。琵琶湖マラソン3月2日この大会での記録が左

右しそうです。3月23日大阪で開かれる小学生全国クロスカントリー「川中島ジュニア」市長に初陣の決意とある2月23日付長野市民新聞と原稿を持って早速屋川の練習場所に車で向い竹内監督と面会、レースはまだ先だけ計3名分の原稿をお願いして参りました。この練習会場は恵まれている。アカシアの樹をめぐって又チップをきれいに張り詰めて足等を痛めずクッション代わりになっています。良く目をこらして選手のフォームを見れば全身から気合がほとばしっていました。全国大会のご健闘を祈りながら失礼致しました。今回も又、多くの皆様に原稿等ご協力を賜り深く感謝致しております。平成20年3月 広報部長 若松軍蔵

SHINANO MATE

ATHLETIC UNIFORM

しなのメイト 株式会社

〒389-0606 埴科郡坂城町大字上五明992-2
PHONE (0268) 81-1336
FAX (0268) 81-1337



題字の「動き」は長野市陸協三代目会長 山浦保氏の書で、山浦会長の頃、市陸協会報紙として何号か発行されていました。

発行所 長野市陸上競技協会
発行人 浦野義忠
編集人 若松軍蔵

第10回全国小学生クロスカントリーリレー出場にあたって

川中島ジュニアランニングクラブ 竹内万祐

参加メンバー 監督 竹内万祐 コーチ 玉城さつき
選手 山田祐也(三本柳小6年) 村田将斗(三本柳小6年)
山崎 洵(三本柳小6年) 和田達也(裾花小5年)
小林真帆(青木島小6年) 青木若菜(芹田小6年)
小池萌加(三本柳小6年) 玉城かな(三本柳小5年)

私共川中島ジュニアランニングクラブは、昨年7月14日に白馬スノーハープクロスカントリー小学生駅伝大会で長野県1位となり、全国大会出場となりました。

全国大会は初出場で、大変嬉しく思っています。全国大会は、この3月23日に大阪万博記念競技場特設コースにて全国50チームが参加して行なわれます。長野県代表として参加させていただけることを選手共々大変光栄に思っております。

子供達は競技を通して日々練習の中でまわりの皆様方に支えていただきながら頑張ってきました。今まで自分達が頑張ってきた成果と感謝の気持ちをもって一杯走りてきたいと思っております。

最後に、今大会を迎えるにあたり、お世話になりました皆様方に感謝申し上げます。今後ともご指導ご鞭撻を賜りますようお願い致します。



諏訪市長への表敬訪問

川中島JRC 山田祐也

いいと思い、一生けん命うでをふり、坂道を上りきり、下り坂になった。「よし、1位に追い着くぞ」と思った。だが、足が重く、1位との差がひらいてしまった。ゴール地点にもどってくると「がんばれー」「あと少しだぞ」とチームメイトの声にはげまされた。ほくは、最後の力をふりしほってゴールまで走った。結果は2位だった。1位は千葉県のチームだったので、長野県では1位になり、全国大会への出場を決めることができ、うれしかった。全国大会では全部で50チームの強い選手達がたくさんいるけれど、8位入賞を目指し、ほかの選手の走りを勉強して、このチームで楽しく、くいのない走りをしてきたいと思っております。

川中島JRC 小林真帆

ました。その後、みんながんばってくれましたが、結果は2位でした。残念ながら千葉県のチームに敗れてしまいました。しかし、長野県チームの中では、1位になることができ、全国大会へのキップを手に入れることができました。とてもうれしかったです。

全国大会出場が決まり、練習も厳しくなりましたが、がんばってきました。

私は全国大会で1区を走る予定です。目標は10位以内でもどって来ることです。チームでは入賞したいと思っております。私1人の力では無理ですが、6人全員の力と心が1つになれば、入賞できると思っております。長野県代表として自信をもって全国のチームと戦ってきたいと思っております。

昨年7月「白馬スノーハープクロスカントリー大会」がありました。私たちは、この大会で優勝し、全国大会に出場することを目標に練習してきたので「絶対に全国大会へのキップを手に入れる」と心を1つにしました。

私は1区を走り、優勝をねらえる順位でもどって来れるようにがんばりました。コーチに「最初から行け」と言われた通りスタートから先頭に立てることができました。でも上り坂は、とてもきつくて足がドロドロにはまったりして大変でした。しかし、1秒でも早くたすきを渡したかったのでがんばりました。なんとか1位でたすきを渡すことができました。自分でも信じられませんでした。みんなの応援があったから1位でたすきを渡すことができたのだと思

都道府県対抗男子駅伝を終えて

私は、第13回都道府県対抗男子駅伝で4区、5kmを走らせていただきました。

大会2日前に広島に入り、選手の発表があったのは、大会前日の午後でした。そこで監督から4区と言っていたとき「都道府県を走れる」という気持ちと「失敗はできない」という緊張した気持ちになりました。

大会当日は、朝から少し緊張していましたが、中継所に着いてからは、逆に「早く走りたい」と思うようになりました。

全体のレース展開は、1区の千葉が3位で中継し、3区の佐藤先輩で1位になり、そのまま4区の私にタスキが繋がりました。

佐藤先輩が1位でタスキを持って来てくれる、と信じていたので、気負うことなくリラックスして走り始めることができました。最初の1kmは楽に余裕を持ちなが

ら「追い付かれても、1位でタスキを渡そう」と考えながら走っていました。途中で後ろから、他の選手の足音が聞こえてきて「追い付かれた」と思いましたが、2km、3kmと私がきつくなるにつれて、後ろの足音も少しずつなくなっていきました。そこから気持的にも余裕が出てきて、ラスト300mからスパートをかけることができました。

結局私は、2位に20秒差の1位で、5区の村沢にタスキを渡すことができました。その後、村沢が差を広げ、長野が最後は、2位に13秒差で逃げ切り優勝することができました。

今回の都道府県対抗男子駅伝では、多くの方々に支えていただいたお陰でしっかりと走ることができました。本当に感謝しています。この経験を生かしてもっと力をつけていきたいです。

佐久長聖高校駅伝部 佐々木健太

第56回長野県縦断駅伝競走大会長野市チームご支援の御礼

平素 長野市陸上競技協会の事業につきましてご指導、ご理解を賜り厚く御礼申し上げます。

第56回長野県縦断駅伝競走大会長野市チームのために多くの企業の皆様方より、ご協賛金を賜りありがとうございます。厚くお礼申し上げます。

二連覇を目指し監督・選手一丸となって、1年間取り組んでまいりましたが、準優勝という悔しい結果でございました。しかし、ライバルチームの上伊那とは終始デットヒートを繰り返し、2日間でのトータル12時間以上を走破しまして、16秒差という僅差でございました。218.4km・21区間をどの選手も良く激走してくれたと思いますが、二連覇を逸したことが、全佐久チームに大差

をつくられたこと等詳細に分析し練習しているところがございます。第57回大会に向けまして、駅伝部長・監督・主将を中心にチーム一丸となりまして、火の玉の如く取り組み栄冠を勝ち取りたいと思っておりますので、今後ともよろしくご指導、ご協力をお願い申し上げます。

なお、貴社及び皆様方ご発展、ご活躍を心よりお祈り申し上げます。(敬称略・順不同)

- | | | |
|----------|----------|-----------|
| 長谷川体育施設 | ㈱ホテル犀北館 | ホテル信濃路 |
| 御宿記念館 | 中央館清水屋旅館 | ㈱車屋HIZUME |
| ㈱長野スター商会 | ㈱中屋スポーツ | ㈱アイフ記章 |
| ㈱大伸鉄工工業 | ㈱芝上建設 | ㈱近藤商事 |

◆ 栄章受賞おめでとうございます ◆

19年度の栄章、長野市陸協から次の13名の方々がそれぞれ受賞されます。

- | | |
|---------------------------|----------------------|
| (東海陸協関係) 功労章・大竹義雄 | 有功章・浦野義忠 |
| (長野県体育協会関係) 60周年記念表彰・伊藤利博 | 指導者功績章・戸谷直喜 |
| (長野陸協関係) 功労章・内山了治 | 西澤直希 鳥羽詩織 小田切亜紀 西澤春香 |
| 勲功章・原弦太郎 | 勲功章・西澤直喜 早川恭平 佐々木健太 |
| (長野市体育協会関係) 功労章・大竹義雄 | |

小日向佐一氏の死を悼む (享年85歳) 平成20年1月21日逝去

小日向さんは、若い頃は選手として短距離選手として、県青年団代表として県内外の大会で活躍されました。以後、長野市、県陸協の役員として又コーチ、監督として多種にわたり活躍され、昭和48年～55年4期8年長野市陸協理事長、又昭和56年～61年6年間長野県陸協副理事長の大役をこなされ、62年～平成12年まで長野市陸協副会長を永きに渡り歴任されました。その間、各種競技会への審判を手弁当で毎回のように出席され、大きな声で監察主任で旗を振っていたことを思い出します。又リーダーシップの強い方で多勢の会員を先頭に立って引っ張って下さいました。



小日向佐一氏 佐藤 敬徳
サヨウナラ浅間陸上競技場 中高年齢者陸上競技大会 H11.8.26

長野市陸上競技協会 副会長 寺島大士
長野市陸協理事長の際は、長野市運動公園に陸上競技場の開設に多大なご努力により完成し、51年インターハイが無事成功に終了したこと、今でも思い出します。こうした多くの業績が永遠に私達の記憶に残り、未永くたたえられることは申し上げるまでもないでしょう。

小日向さんのご遺志は、確実に我々長野市陸協会員等に引き継がれ、一段と大きな花を咲かせるものと、誰もが信じております。

長い間ご苦労様でした。心から小日向佐一様のご冥福をお祈り申し上げます。合掌

第150 ホープさん

長野東高校 加藤未有



全国高校駅伝での激走

私は去年、尊敬する玉城先生や憧れの先輩方がいらっしゃる長野東高校へ入学しました。私は中学から陸上部で、走ることが好きですが、中でもチームで1つのタスキをつなぐ駅伝が大好きです。東高は、2年生が3人、1年生が4人の7人という少ないチームですが、全員が一丸となって駅伝の全国大会を目指しました。『常に心にタスキをかけ、全員駅伝!』を目標に、毎日の練習を頑張ってきました。そして県大会では、全員が笑顔で全力でタスキをつなぎ、全国へのキップを手に入れることができました。ゴールへ美春先輩が入った瞬間、チーム全員の目には、自然と涙があふれていました。最高でした。それから全国大会までは、一日一秒を大切に考えて過ごしました。

迎えた本番では、何ともいえない緊張感が一気に押し寄せてきました。全国大会は夢の舞台で、すごく嬉しいけれど、県の代表であり、たくさんの方達の思いが詰まっていることで、タスキがとても重いものに感じたからです。でも、仲間が待っていてくれると思うだけで心強く、前向きになれました。レースは、垂希先輩の激走から始まり、全員で着実にタスキをつなぎ、目標の17位を達成しました。憧れの舞台で走れたことが嬉しくて、みんなでタスキをつなげたことが嬉しくて、本当に胸一杯になり

ました。そして、このようなかけがえのない経験ができたのは、支えて下さったり、応援して下さいました。たくさんの方達のお陰だと思っています。

今まで走ってこれたのも、これから走っていかれるのも、先生方のご指導やたくさんの方々のお陰であることに感謝し、その気持ちを絶対に忘れてはいけません。そして、玉城先生がいつも言っていた「速い選手より強い選手になりなさい」この言葉を胸に、走ることが大好きという気持ちを持って、これからもひたむきに走っていきたく思います。

陸上クラブ紹介 No.16 付属長野中学校陸上部

こんにちは。付属長野中学校陸上競技部です。我が陸上競技部は、現在男子28名、女子16名、計44名の1、2年生部員と3名の顧問で、来る2008年シーズンに向けて頑張っています。



2007年シーズンは、皆様のお支えのおかげもあり、予想以上の素晴らしい成績を収めることができました。女子リレーチームが県大会で優勝し、念願の全中切符を得ることができ、男子リレーチームもあと一步のところでしたが、県中学新記録を出し北信越大会に進むことができました。また、男子200mで新井、杉山が、男子400mで大森がそれぞれ標準記録を突破し、全中への切符を手に入れることができました。学校の特殊性もあり、年間通して行えるのは7:00～7:40までの朝練習のみで、放課後はトップシーズンでも1時間30分程度しか行えません。「部活動なし」という日も多く、そのような時には東和田へ行き、「自主練」を行っています。坂本さんを始め、陸上競技場の皆様には大変お世話になっています。このように他の学校に

比べて部活動の時間は短いのですが、その短い時間をいかに有効に使い、追い込むかということを考えて練習に取り組んでいます。昨年度まではリレー、短距離が中心でしたが、現在は中・長距離やフィールド種目にも取り組む生徒が増えてきました。3年生が抜けた穴は予想以上に大きく、昨年度のような成績が収められるかどうかはわかりませんが、部員・顧問一同、楽しくかつ切磋琢磨し合いながらより上位の大会出場を目標に頑張っていきたいと思っております。長野市陸協の皆様には、講習会や記録会などで大変お世話になります。恵まれた環境で思い切り陸上競技ができる喜びと感謝の気持ちを忘れずに頑張りますので、これからも応援よろしくお願いします。

付属長野中学校 陸上競技部顧問 早川孝一